



Noguchi Times

NOGUCHI INTERNATIONAL BUSINESS CONFERENCE NEWS Vol. 13 2016.5.25



第23回野口国際ビジネス交流会出席者

CONTENTS

■第23回NIBC開催内容報告		p2
■野口アラムナイ東部支部会		p3
■医学交流活動 -Clinical Reasoning Exercise報告-		p4
■医学交流活動 -Clinical Skills Program報告-		p5
■健康博覧会2016報告		p6
■賛助会員のご紹介		p7
■野口記念インターナショナル画像診断クリニックのご案内		p7

第23回NIBC開催内容報告

(NIBC : Noguchi International Business Conference)

2016年3月24日(木)

於：野口医学研究所 9階会議室

『バケモノと蔑まれても』



陶彫作家
清久焼一天窯
野口 一夫

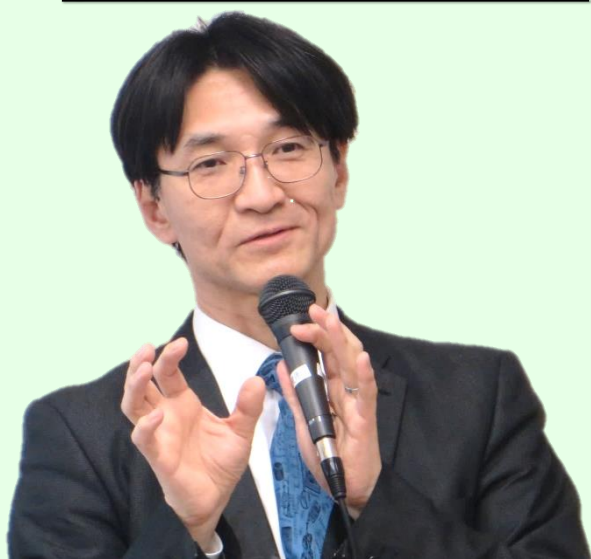
私の顔の左半分は、幼い頃の大火傷に因って頭蓋骨が陥没しています。そのせいでバケモノ扱いをされ、いじめられ、嫌われていました。自分の立場が何も分からなかった幼い頃は、子供心に周りから好かれなくて、一所懸命笑いかけていましたが、優しい笑顔が返ってくることは殆どありませんでした。

誰にも相手にされない寂しさ、悲しさ、辛さは年齢に関係なく傷つくものです。ましてや“バケモノ”“バカハゲ”と言われ続けてきた私は、5歳にして自殺を図りました。その時は幼い知恵の為失敗しましたが、その後も何度死のうと考えたか分かりません。暴力、嘲笑、無視される者の心の痛みは大きく、辛さ、寂しさが絶望感に変わり、やがて闇に追いつめられ死を選んでしまうのです。

いじめは確実に心を壊します。死んでいった者は、その悔しさや辛さを語ることもできず、残された家族の無念は計り知れません。いじめの惨さは実際に体験した者でなければ到底理解できないと考えています。

だからこそ、私の体験を発表することで、現在、苦しみ悩んでいる人達へ“バケモノ”と蔑まれても、生き抜いた人生があることを伝えたい。私の実録記が、生きる不安を感じている人達へ何らかのヒントを与えられればと考えています。

『転移なければ虎も猫』



東京女子医科大学医学部
薬理学教授・講座主任
丸 義朗

本日は、がんを薬で治すという最新の治療について、白血病の観点からお話しさせていただきます。

私は、東大病院第3内科(血液内科)に入局し、虎ノ門病院で研修医として勤務した後、再び東大にて白血病の専門医となり、現在は女子医大で研究を続けています。

再発を繰り返す白血病は、医師として治療を施しても治らない病気であると実感していましたが、近年、内服薬が開発されました。その一つに“グリベック”があります。“グリベック”は、アメリカ軍を標的としてドイツで開発された毒ガスですが、戦後の研究に依り白血球と関連する事が判り、有機化学者により分子標的薬(がん細胞の持つ特異的な性質を分子レベルで捉え、それを標的として効率よく作用するように作られた薬)として開発に成功しました。

がんで手ごわいのは、転移です。がん細胞が血中を流れている時点で転移なのです。私は、このがんの転移を抑える新たな薬を開発中です。がん細胞が出す物質が肺の細胞に作用すると、肺細胞の表面のタンパク質に結合し炎症が起きます。この結合を抑える薬“エリトラン”で様々な転移を防ぐ可能性があります。期待して下さい。

野口アラムナイ東部支部会

2016年2月20日（土）
於：Mount Sinai Beth Israel Baird Hall

アラムナイ（野口アラムナイアソシエーション）とは、海外での研修を終えて国内外で活躍する医師たちが中心となって設立された組織です。日本の医学の進歩と在留邦人のための適切な医療体制の確立を目的とし、日本から訪れる臨床研修医の活動をサポートするとともに、留学中の日本人医師に野口医学研究所への協力を呼びかけています。

今回はアメリカ東海岸在住の医師らがニューヨークに集結し、『野口アラムナイ東部支部会』を開催しました。

タイムスケジュール

時間	議題
15:00-15:10	佐藤隆美先生（評議員会会長） 『野口アラムナイの活動報告とこれから』
15:10-15:50	参加者の自己紹介と近況報告
16:00-16:20	藤谷茂樹先生（野口アラムナイ執行役員） 『新内科専門医制度』
16:20-16:40	津田武先生（評議員会評議員） 『米国でグリーンカードを取得するためのプロセス』
16:40-17:00	その他 （野口アラムナイ会会則、フェローシップ、アカデミックポジション、日本の帰国先についての情報交換等）
17:30-	夕食会

冒頭では、佐藤隆美先生より「野口」の活動とこれまでの歴史について話され、藤谷茂樹先生より、新内科専門医制度について講演が行われました。

全体でのフリーディスカッションでは、米国レジデンシーを対象とした『奨学金/ローン制度』の導入や、米国faculty※が複数存在する「野口」のつながりをもっと強固なものにしたいとの意見、更に、定期的な支部会開催の企画案が出されるなど、活発な意見交換が行われ、支部会の開催により様々なアイデアが誕生しました。

※米国faculty…米国の制度や教育システム等を熟知している指導医。



当日支部会に参加したアラムナイメンバー





医学交流活動

- 第二・第三の野口英世を育てるために -

米国財団法人野口医学研究所は、患者様の痛みや苦しみ、家族の不安に共感できる医療従事者の育成を目指し、活動しています。今年も3月に、医学生を対象としたCRE(Clinical Reasoning Exercise)とCSP(Clinical Skills Program)が実施されました。研修に参加した医学生達の声に、各大学におけるプログラムの特徴をご紹介します。



Clinical Reasoning Exercise

時期：2016年3月6日(日)～11日(金) 場所：ハワイ大学

Medical Examination

現地での実習はすべて英語で行われ、息切れ・胸痛の問診・身体診察や悪い知らせの伝え方、症例発表、禁煙外来に関する講義を受けました。

又、座学で学んだことを基に実践してみる模擬患者を用いた診察の練習をする機会もあり、実際の医療面接を体験し、そのむずかしさを実感すると同時に患者との信頼関係を築く為のコミュニケーション能力の習得の重要性を認識しました。



Problem Based Learning

マネキンシミュレーターを用いた実習やハワイ大学における医学教育での特徴であるProblem Based Learning(PBL)による症例検討も行われました。PBLでは、症例が与えられ、患者に関する情報、症状の詳細、検査結果等を質問していき鑑別診断を除外するプロセスを経て診断を導き出し、さらに行うべき検査や治療について検討しました。



2016年度CRE研修生

教室での座学、PBL、マネキン、模擬患者を通じた学習のどれもが実際の医療現場を意識したものであり、先進的な施設や教育制度等からハワイ大学における医学教育の充実さを感じ、日本との違いに驚きや感動を感じ続ける日々でした。



Clinical Skills Program



Jefferson.

HOME OF SIDNEY KIMMEL MEDICAL COLLEGE

時期：2016年3月18日(金)～25日(金) 場所：トーマスジェファソン大学

Shadowing

医師、看護師、アシスタントなど医療スタッフが**患者に敬意を払い**、人として正面から向き合っている姿を見ました。特に家庭医療(Family Medicine)の外来では、**患者が医師を信頼し悩みを打ち明け、医師がそれを正面から受け止めている印象**を受けました。



2016年度CSP研修生

JeffHOPE & Chinatown Clinic



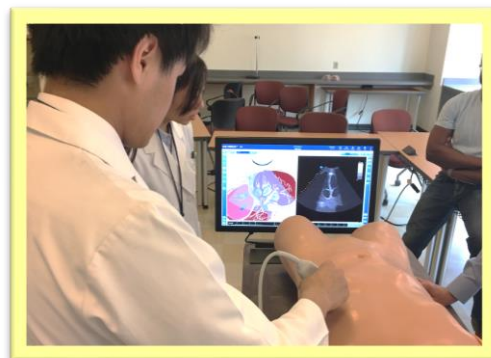
Dr.Lauは通常の診療や研究の他、ボランティアでChinatown Clinicを行っている先生ですが、先生の一言一言から**患者に対する思いやりや情熱**が伝わってきました。また学生を中心とした無料診療施設JeffHOPEも見学し、純粋な心で本当に助けが必要な人に手を差し伸べることで、それが医療の真髄なのだと再認識しました。



Simulation Center



現場での失敗は患者の命に関わるため、シミュレーションセンター内で十分に失敗し、失敗の原因を探究、改善するということを重点に置いています。医師や学生だけでなく、看護師や理学療法士も使用しており、**現場でミスを防ぐためのシミュレーションによる問題点の洗い出し→分析→改善**のステップがしっかりと行われています。



Interprofessional Education

トーマスジェファソン大学では専門職連携教育(Interprofessional Education)を取り入れています。患者の治療における自分の役割及び他の医療従事者の役割を学ぶプログラムです。学生の内から他の医療従事者となる学生と活動することで、各々のフィールドを理解し、**患者のために自分がどう動けば良いかが分かり、チームとしての強化を行うことができます**と考えられます。

健康博覧会2016

2016年3月16日（水）～18日（金）

於：東京ビッグサイト

野口医学研究所は、今年も『健康博覧会（健康食品・サプリメント展）』に出展しました。

天蓋には大きなバルーンを掲げ、医療や健康に係る商品（健康食品・化粧品等）並びにサービス、そして、健康ビジネスの背景にある理念等について来場者に強くアピールしました。



一般社団法人野口医学研究所
専務理事 末永 佳文

単に商品を製造販売しているということではなく、その背景にある理念や、何のために健康ビジネスを行っているのか等をしっかりと伝えたいつもりです。ブース自体も強くアピールできたのではと思っています。

今年はアジア圏（特に中国）からの来場客が多かったと感じています。メディカルツーリズムや医療相談等、医療ビジネスの拡大を図るべく、ご案内をしました。

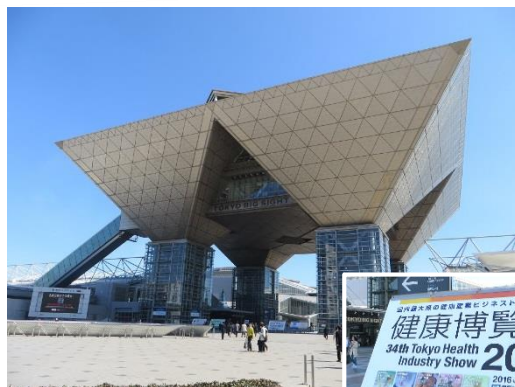


一般社団法人野口医学研究所
常務理事 堤 大造

中国の患者様から「日本で治療を受けたいのだが、どのような所を紹介して貰えるか？」というご質問を頂きました。重粒子線センターや免疫療法実施施設、がん研有明センター等をご案内できるというお話をしました。



一般社団法人野口医学研究所
第二営業部部長 野口 さとみ



賛助会員のご紹介

米国財団法人野口医学研究所は、国際医学交流の促進を目的とした活動を永年に亘り続けてきました。日本が生んだ世界的医学者・野口英世博士の偉大な業績を称えその遺志を受け継ぐためには、国際医学交流活動は不可欠であると考えています。当財団の「賛助会員制度」は、多くの方々にこの活動へのご理解とご支援を承る役割を果たしています。今回は、株式会社デュナレイト様をご紹介します。

Sky is the limit

弊社は飲食コンサル等のプロデュース業、
海外ボランティア等の国際人材支援を行っております。
【可能性】を意味する「デュナミス」と
【貫く】を意味する「ペネトレイト」を組み合わせた
デュナレイトという社名に込めた意味をモットーに掲げ、
自らの限界を定めず、日本はもとより海外へも積極的に進出し、
ビジネスの将来性と、私達のビジョンを広げていきます。

限り無い可能性の飽くなき追求

株式会社デュナレイト 〒105-0004 東京都港区新橋2-3-7 菊豊ビル3F TEL:03-3500-3432

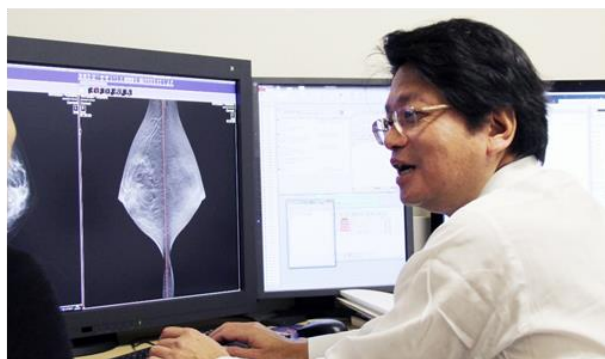


医療法人社団NIDC

野口記念インターナショナル画像診断クリニック

Noguchi International Diagnostic Clinic

- 主治医以外に意見を求めたい方に
「画像診断セカンドオピニオン」
- がんの早期発見に
「テロメスキャン®」
- がんの免疫細胞療法に
「BAK療法」
- 乳がんに対する不安に
「乳房専用のPET検査“PEM”」



是非一度ご相談下さい

お問い合わせは
「野口医学研究所」まで



**Facebook &
アメーバブログ**
よろしくお願いします。



いいね! & コメント

お待ちしております!



浅野嘉久

検索

NOGUCHI TIMES

Noguchi International Business Conference News Vol. 13

発行日 2016年5月25日
発行人 安東 恭助
発行所 米国財団法人野口医学研究所
編集 〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-22-13
電話 03-3501-0130
米国財団法人野口医学研究所 参与会
